

朝日連峰保全協議会 ニュースレター

(このニュースレターは朝日連峰保全協議会会員各位とこれまでの会合や作業等に参加頂いた皆様にお送りしています。)

発行者:朝日連峰保全協議会

■朝日連峰保全協議会 合同保全作業の報告について

平成22年9月25日(土)～26日(日)、朝日連峰の三方境において、今年5月26日の朝日連峰保全協議会第2回会合で決定された合同保全作業を行いました。今回の作業箇所の三方境は風衝地で、風衝裸地、登山道の複線化、踏圧によるガリー侵食等によって現在も荒廃が進行しています。平成20年度の実証試験箇所を含む場所ですが、風衝地での植生復元手法を確立するためには、実証試験の結果を踏まえて工法の改善が必要であったことから、今回は試験的に様々な工法を試みました。作業の概要としては以下のとおりです。

9月25日、日暮沢小屋に集合し、清太岩山経由で緑化ネットやスコップ等の資材の荷上げを行いました。竜門小屋に到着後、事前作業として荷上げしていた緑化ネットと土嚢袋の一部を、翌日の作業に備えて作業箇所である三方境に運搬しました。25日の夜は混雑緩和の為、狐穴小屋と竜門小屋の2班に別れて宿泊しました。9月26日の作業概要は以下のとおりです。

- 竜門小屋から残りの緑化ネットや土嚢袋を三方境まで運搬しました。
- 実証試験時に施工した石組土留の下部や側面等から土砂が流出し修復が必要になっていたため、ヤシ繊維を利用して隙間を詰めて土砂流出防止を図りました。
- ガリー侵食部に土砂を堆積させるため、現地の転石による石組みと麻製土嚢袋にヤシ繊維を詰めた土留め工を設置する作業を行いました。
- 歩行路を固定化する為、現地の転石を用いてステップとなると石の設置と赤ペンキによるマーキングを行いました。
- 緑化ネット20巻(麻製ネット10巻 1.2m×30m ヤシ製ネット10巻 1m×15m)を敷設しました。
 - 麻製ネットは耐久性が低く、極めて風が強い場所では不十分であったため、ヤシ製ネットを採用しました。またヤシ製ネットの箇所、麻製ネットとヤシ製ネットをした箇所など、同じ環境下で条件を変えて試験的に敷設しました。ネット敷設後は風で飛ばされないようにピンでネットを固定し、微地形効果の創出とおもしを兼ねて、転石を置きました。
- 風食が荒廃要因と見られる箇所では、風除けを目的として裸地部と植生部の際に土嚢袋を試験的に設置しました。



出発前の挨拶 渋谷啓代表



麻製土嚢袋を用いて土留め工を設置



現地の転石を用いて、ステップとなる石を設置
(歩行路固定)



緑化ネットを敷設



風除け目的として、試験的に土嚢袋を設置



作業終了後に記念撮影

実際の作業では合同保全作業経験者が班長になり、資材運搬班、石組み班、緑化ネット班、歩行路固定班とグループに別れて行われ、予定していた作業全てを終了することができました。

今回の作業では、朝日連峰保全協議会の渋谷代表に当日の指揮監督等、子細に渡ってご尽力頂きました。福島県や新潟県等の遠方からの参加者もあり、また事前作業の緑化資材の荷上げでは大変多くの方にご協力いただきました。

天候に恵まれ、且つ、参加頂いた皆さんの手際よい作業により素晴らしい成果をあげることが出来ました。事前の荷上げを含め2日間の現地作業、本当にお疲れ様でした。

作業終了の時に、現地で参加者全員で振り返りの時間を持つべきところでしたが、下山時間の制約の都合上、割愛といたしました。今後は適切な時間配分を行いたいと考えております。

この度の共同保全作業へのご協力、改めて深謝申し上げますとともに、今後とも朝日連峰の原始性保全活動の推進に、更なるお力添えを頂きますよう、宜しく願いいたします。

(当日は、10団体、33人の参加がありました)

【発行者】朝日連峰保全協議会

(事務局)羽黒自然保護官事務所(坂本、佐々木)

〒997-0141

山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4

TEL : 0235-62-4777

FAX : 0235-62-4537

E-mail : RO-HAGURO@env. go. jp

※本ニュースレターは以下の URL のトピックスからも閲覧できます。

<http://tohoku.env.go.jp/>